

平成 28 年度 第 1 回園芸研究所主要課題現地検討会 「キク白さび病の多発要因の解明と効果的な防除法の確立」の開催

6月27日（月）、園芸研究所においてキク白さび病に関する主要課題現地検討会を開催しました。キク白さび病は市場からのクレームともなる、生産者が最も対応に苦慮する最重要病害です。試験への期待の高さから、梅雨の合間の貴重な好天日にも関わらず、県内各地の生産者を中心に82名（うち生産者54名、JA等の関係機関5名、県機関23名）もの出席を頂きました。

検討会では、1. キク白さび病についての概要、2. H27年度の試験結果とH28年度の試験設計の紹介、3. H28年度試験の圃場検討（耐病性の品種間差と、有効薬剤の効果について展示）、4. 意見交換を行いました。なかでも圃場検討では、耐病性には品種間差が極めて大きいこと（農薬無散布でもほとんど発病しない品種がある）、白さび病に卓効を示す農薬の散布効果について紹介し、様々な質問・意見を頂きました。また、意見交換会では、農薬の残効期間を明らかにして欲しい、現場では治療効果の高い農薬を求めている等の、多くの要望が出されました。

今回の検討会は、生産者からの意見・要望を今後の試験に反映するため、研究期間の中間年に行い、生産者からは試験やキク栽培に関する様々な質問や要望が挙げられ、短い時間ながらも有意義な検討会になりました。今後、頂いた意見を反映させながら、普及性の高い防除法を開発していきたいと思えます。



室内検討会の様子



圃場検討の様子